

2009年10月

1. 新聞・テレビ等

(毒性部)

○ 菅野 純

エコナ大丈夫？ 安全性の不安に対応 出荷停止に

朝日新聞, 9月20日, 朝刊

食品安全委専門委員で国立医薬品食品衛生研究所の菅野純・毒性部長は「体内で発がん物質になるという証拠は現時点ではないが、蓋然性は高い」。会議でも、現時点で管理機関が適切な措置をすべきだと主張した。「健康被害を最小にするには、最悪のケースを考えて即座に対応すべきと判断したため」と言う。

2. 誌上発表(原著論文)

(生物薬品部)

○ 宮田直樹*, 川崎ナナ, 内田恵理子, 蜂須賀暁子

*名古屋市立大学

「日本薬局方の試験法に関する研究」研究報告—日本薬局方の名称関連項目の科学的整備に関する研究—

医薬品研究, 40, 587-598 (2009)

日本薬局方に既掲載の生物薬品及び近々掲載が予定されている生物薬品を対象に、医薬品の本質(構造)にかかわる名称関連項目の記載内容及び表記方法について調査研究を行い、今後整備が必要となる事項を明らかにした。

○ Morita, I.^{*1}, Kakuda, S.^{*1}, Takeuchi, Y.^{*1}, Itoh, S., Kawasaki, N., Kizuka, Y.^{*1}, Kawasaki, T.^{*2}, Oka, S.^{*1}

^{*1}京都大学, ^{*2}立命館大学

HNK-1 glyco-epitope regulates the stability of the glutamate receptor subunit GluR2 on the neuronal cell surface. (HNK-1糖鎖は神経細胞表面におけるグルタミン酸受容体サブユニットGluR2の安定性を制御する)

J. Biol. Chem., 284, 30209-30217(2009)

神経系に高発現しているHNK-1糖鎖について、キャリアタンパク質の同定と機能解析を行い、HNK-1糖鎖がAMPA型グルタミン酸受容体GluR2に付加されていること、及び、HNK-1糖鎖がGluR2の細胞表面局在に必要であることを明らかにした。

(療品部)

○ 迫田秀行, 石川格, 鄭徳泳, 佐藤道夫, 土屋利江, 脇谷滋之^{*1}, 天正恵治^{*2}

^{*1}大阪市立大学, ^{*2}信州大学

微小試験片を用いた高密度架橋ポリエチレンの疲労特性評価

臨床バイオメカニクス, 30, 263-268 (2009)

人工関節の摩耗抑制のために開発された高密度架橋ポリエチレンの疲労特性を、微小試験片を用いた方法で評価した。その結果、製造条件によっては疲労特性が30%低下していた。抜去コンポーネントの疲労特性を同様の方法で評価した場合、30%以上の疲労特性の低下で疲労に関係する不具合が発生しており、同様の不具合発生の可能性が指摘された。

○ 迫田秀行, 鄭徳泳, 佐藤道夫, 土屋利江, 脇谷滋之^{*1}, 天正恵治^{*2}

^{*1}阪市立大学, ^{*2}信州大学

人工関節の不具合要因分析 第二報 人工股関節

臨床バイオメカニクス, 30, 319-323 (2009)

不具合で抜去された人工股関節を対象とし、効率的な抜去インプラント解析による不具合要因の推定方法について検討した。その結果、多くの不具合が超高分子量ポリエチレンコンポーネントの酸化劣化に起因すると思われ、これらは目視でも判別が可能であった。15例中3例でのみインプラントから不具合要因が特定できず、臨床情報の活用が必要と思われた。

- Ahmed, S., Tsuchiya, T.^{*}, Nagahata-Ishiguro, M., Sawada R., Banu, N., Nagira, T.
^{*} 大阪大学

Enhancing action by sulfated hyaluronan in connexin-26, -32, and -43 gene expressions during the culture of normal human astrocytes (硫酸化ヒアルロン酸による正常ヒトアストロサイトにおけるコネクシン-26, -32, -43の遺伝子発現の増強作用)

J. Biomed. Mater. Res. A. 90(3), 713-719 (2009)

正常ヒトアストロサイト(NHAs)における硫酸化ヒアルロン酸(SHya)の役割について検討したところ、SHyaによってNHAsにおけるコネクシン-26, -32, -43の遺伝子発現が増強し、ギャップジャンクション機能が上昇した。

(食品添加物部)

- 大野浩之^{*}, 鈴木昌子^{*}, 六鹿元雄, 河村葉子
^{*} 名古屋市衛生研究所

合成樹脂製器具・容器包装および玩具における過マンガン酸カリウム消費量および全有機炭素の検討

食品衛生学雑誌, 50(5), 230-236 (2009)

合成樹脂製器具・容器包装および乳幼児用玩具から溶出する有機物総量の指標として、過マンガン酸カリウム消費量と全有機炭素を検討し129検体を調査した。多くの試料でいずれも定量限界以下だったが、ポリ塩化ビニル、ナイロンなどで検出された。後者の方が有機物総量の指標としては適当であり操作も簡便であった。

(機能生化学部)

- Maekawa, K., Harakawa, N., Sugiyama, E., Tohkin, M., Kim, S.R., Kaniwa, N., Katori, N., Hasegawa, R., Yasuda, K.^{*1}, Kamide, K.^{*2}, Miyata, T.^{*3}, Saito, Y., and Sawada, J.

^{*1} 国立国際医療センター, ^{*2} 大阪大学, ^{*3} 国立循環器病センター

Substrate-dependent functional alterations of seven CYP2C9 variants found in Japanese subjects (日本人で見出される薬物代謝酵素CYP2C9の7種の変異アレルの基質依存性の活性変化)

Drug Metabolism and Disposition, 37(9), 1895-1903 (2009)

薬物代謝酵素CYP2C9において、日本人から見出された7種のアレル(CYP2C9*3, *13, *26, *28, *30, *33, *34)について、インビトロ機能解析を行った。ジクロフェナック、ロサルタン、グリメピリドを基質とした際の変異体のCYP2C9活性は、基質依存性に低下することを示した。

(代謝生化学部)

- Matsunami K^{*1}, Otsuka H^{*1}, Kondo K, Shinzato T^{*2}, Kawahata M^{*3}, Yamaguchi K^{*3}, Takeda Y^{*4}.

^{*1} 広島大学, ^{*2} 琉球大学, ^{*3} 徳島文理大学, ^{*4} 安田女子大学

Absolute configuration of (+)-pinoselinol-4-O-[6''-O-galloyl]-β-D-glucopyranoside, macarangiosides E, and F isolated from the leaves of *Macaranga tanarius* (Macaranga tanariusから単離した(+)-pinoselinol-4-O-[6''-O-galloyl]-β-D-glucopyranoside, macarangiosides E, and Fの絶対構造決定)

Phytochemistry, 70(10), 1277-1285 (2009)

Macaranga tanariusの葉より、新規物質macarangiosides E, and Fを他の既知物質とともに単離し、それらの絶対配置を明らかにした。

(病理部)

- Imai, T., Hasumura, M., Cho, Y. M., Ota, Y., Takami, S., Hirose, M., Nishikawa, A.

Inhibitory effects of aminoguanidine on thyroid follicular carcinoma development in inflamed capsular regions of rats treated with sulfadimethoxine after N-bis(2-hydroxypropyl)nitrosamine-initiation (DHPNイニシエーション後サルファジメトキシシン投与ラット甲状腺被膜炎領域におけるアミノグアニジンによる甲状腺発がんの抑制効果)

Cancer Sci., 100 (10), 1794-1800 (2009)

DHPN及びサルファジメトキシシンを用いたラット甲状腺発がんモデルにiNOSの抑制剤であるアミノグアニジンを投与したところ、被膜炎領域のssDNA陽性細胞の減少、甲状腺がん発生数の有意な減少が認められた。iNOSは被膜炎領域における甲状腺発がん過程に重要な役割を果たしていると考えられた。

- Cho, Y. M., Imai, T., Hasumura, M., Watanabe, N., Ushijima, T., Hirose, M., Nishikawa, A

Increased H-ras mutation frequency in mammary tumors of rats initiated with N-methyl-N-nitrosourea (MNU) and treated with acrylamide (MNUイニシエーションとアクリルアミド投与によるラット乳腺腫瘍におけるH-ras変異頻度の増加)

J. Toxicol. Sci., 34(4), 407-412 (2009)

MNUを用いてイニシエーションしたラットにアクリルアミドを投与した結果、乳腺腫瘍の発生率及びH-ras codon12の突然変異(GGA→GAA)の発生率が有意に増加した。この突然変異は乳腺発がん過程早期に重要な役割を果たしており、アクリルアミドはその選択や維持に関わっている可能性が示唆された。

- Tasaki, M., Umemura, T., Kijima, A., Inoue, T., Okamura, T., Kuroiwa, Y., Ishii, Y., Nishikawa, A.

Simultaneous induction of non-neoplastic and neoplastic lesions with highly proliferative hepatocytes following dietary exposure of rats to tocotrienol for two years (トコトリエノール2年間投与によりラット肝に生じた高い増殖活性を有する非腫瘍性ならびに腫瘍性病変)

Arch. Toxicol., 83(11), 1021-1030 (2009)

ビタミンEの1種であるトコトリエノールの高用量をラットに2年間、混餌投与したところ、肝臓に増殖活性の高い非腫瘍性結節が高頻度に認められた。また同時に肝細胞腺腫が低頻度ながら認められた。トコトリエノールは遺伝毒性を有していないことから、腫瘍発生機序にこの非腫瘍性結節形成の関与の可能性が示唆された。

- Takahashi, M., Yoshida, M., Inoue, K., Morikawa, T., Nishikawa, A..

A ninety-day toxicity study of semicarbazide hydrochloride in Wistar Hannover GALAS rats. (ラットを用いた塩酸セミカルバジドの90日反復投与毒性試験)

Food Chem. Toxicol., 47(10), 2490-2498 (2009)

塩酸セミカルバジドを0, 250, 500, 1000ppmの用量で雌雄ラットに90日間混餌投与した結果、雌雄とも投与全群で骨、軟骨および大動脈壁を主体に病変が観察され、本試験におけるNOAELは250ppm以下と判断された。

(変異遺伝部)

- Yatagai, F.* , Sugasawa, K.* , Enomoto, S.* , Honma, M.

* 理化学研究所

An approach to estimatoradiadaptation from DSB repair efficiency (DNA2本鎖切断修復効率から放射線適応へのアプローチ)

J.Radiat. Res., 50, 407-413 (2009)

放射線によるDNA2本鎖切断モデルとして制限酵素I-SceIを利用した細胞系を開発した。この系を用いて放射線適応性を検討した。低線量放射線は組換え修復を促進する。

- Wang J. *, Sawyer J. R. *, Chen L. *, Chen T. *, Honma M., Mei N. *, Moore M. M. *

* 米国FDA, 国立毒性研究センター

The mouse lymphoma assay detects recombination, deletion, and aneuploidy (マウスリンフォーマ試験は組みかえ, 欠失, 染色体異数性を検出する)

Toxicol. Sci., 109, 96-105 (2009)

3種類の染色体異常誘発物質に対してMLA試験を行い, 突然変異の誘発性を検討した. 得られた変異体の遺伝子解析, 染色体解析の結果, これら化合物は遺伝子の大きな欠失, 相同染色体間の組み換え, 染色体全体の消失等の変異を誘発した. MLAはこのような染色体レベルの変異の検出に有効である.

3. 誌上発表(総説・解説等)

(衛生微生物部)

- 天野憲一^{*1}, 斉藤志保子^{*2}, 八柳 潤^{*2}, 三澤尚明^{*3}, 大西貴弘

^{*1}秋田大学バイオサイエンス教育・研究センター, ^{*2}秋田研健康環境センター, ^{*3}宮崎大学農学部獣医学科

***Campylobacter jejuni* LPSと疾患との関わり合い**

エンドトキシン研究, 11, 23-25 (2009)

C. jejuni LPSと自然免疫, ギラン・バレー症候群との関係を解説した.

- 大西貴弘

グリコシル化によるエンドトキシン認識分子の活性調節

エンドトキシン研究, 12, 39-43 (2009)

エンドトキシン認識分子であるTLR4, MD-2の機能がグリコシル化によってどの様に制御されているか解説した.

- 大西貴弘, 室井正志, 棚元憲一

MyD88非依存性経路におけるTLR4二量体形成の役割

エンドトキシン研究, 12, 72-74 (2009)

エンドトキシンの細胞内情報伝達経路であるMyD88依存性経路と非依存性経路の活性化機構の違いについて解説した.

(有機化学部)

- 奥田晴宏

品質に関するトピックの動向 Q8(R1): 製剤開発(補遺)

医薬品研究, 40 (10), 660-666 (2009)

平成20年11月ブラッセル会合でステップ4合意に達したQ8(R1)を解説した. Q8(R1)は, すでに合意したQ8ガイドライン「製剤開発」にその補遺を追加したものである. この補遺の完成によりQ8のimplementationが進むことが期待される.

(安全情報部)

- 天沼喜美子, 森川 馨

**2008年の「医薬品安全性情報」から
—免疫抑制薬使用に伴う感染症のリスクについて—**

The Japanese Journal of Antibiotics, 62(5), 460-470 (2009)

2008年の「医薬品安全性情報」から, 免疫抑制薬ナリツマブ, リツキシマブ等に関連する進行性多巣性白質脳症(ウイルス感染症)のリスク, TNF- α 阻害薬に関連する真菌感染症についてまとめた. また, FDAの最近の安全対策(REMS, 患者向け医薬品ガイド)について紹介した.

(医薬安全化学部)

- 鹿庭 なほ子, 長谷川 隆一

**重篤副作用を予防するために
――重篤副作用発症と関連する遺伝子マーカーの探索研究**

日本病院薬剤師会雑誌, 45(9), 1181-1185(2009)

近年における重篤副作用発症と関連する遺伝子マーカーの探索研究の進歩を紹介するとともに、医薬安全科学部における重篤副作用発症と関連する遺伝子マーカーの探索への取り組み、症例集積システムの紹介、成果などを紹介した。

(病理部)

- 西川秋佳

わが国における食品によるがん化学予防研究の現況と将来への展望 ―行政より見た現況と将来―

Foods & Food Ingredients Journal of Japan, 214 (3), 235-237 (2009)

がん研究の進展にもかかわらずがんによる死亡は増加し続けており、食品および食品成分によるがん化学予防を含めて、科学的エビデンスに基礎を置いた行政的対応が望まれる。

4. 単行本

(衛生微生物部)

- 杉山圭一, 室井正志, 棚元憲一

エンドトキシン研究11―新生「日本エンドトキシン・自然免疫研究会」の発展を願って―

嶋田紘, 谷徹, 横地高志, 清水智治(編), 20-22 医学図書出版株式会社 (2009)

Toll-like receptor 4への作用が期待される敗血症治療薬候補あるいはSTM28などの同リド化合物について概説した。

- 杉山圭一, 室井正志, 棚元憲一, 小西良子

エンドトキシン研究12―自然免疫学の新たな展開―

高田春比古, 谷徹, 嶋田紘(編), 81-83 医学図書出版株式会社 (2009)

マクロファージ細胞におけるLPS誘導性一酸化窒素産生におよぼすトリコセン系マイコトキシンの影響およびその作用機序について最新の知見を踏まえ概説した。

(毒性部)

- 北嶋 聡

平成20年度 化学物質リスク研究シンポジウム「健康と化学物質―化学物質と幼児行動―」講演集CD

社団法人 日本食品衛生協会, 東京 (2009)

「情動・認知に関する化学物質」のセクションで、情動・認知に関する化学物質の、高精度な新たな評価系に関する研究について、本CDの一部を著述した。

5. 学会・講演等

(センター長)

- 井上 達, 壺井 功^{*1}, 大塚健介^{*2}, 五十嵐勝秀, 菅野 純, 平林容子

^{*1}日本大学, ^{*2}電力中央研究所

放射線の酸化的DNA障害によって引き起こされるストカスティックな発現遺伝子プロファイリング

第71回日本血液学会総会 (2009.10) (京都)

- 壺井 功*, 原田智紀*, 平林容子, 菅野 純, 井上 達, 相澤 信*

*日本大学

放射線照射後の微小環境はサイトカイン産生を介してB細胞造血を促進し, 顆粒球造血を抑制する.

第71回日本血液学会総会 (2009.10) (京都)

- Inoue, T.

Hematopoietic neoplastic diseases in C3H/He and C57BL/6 mice after benzene exposure. Differences observed using microarrays. (ベンゼン曝露によるマウス造血器腫瘍の特徴:C57BL/6とC3H/He の比較)

Benzene 2009: Health Effects and Mechanisms of Bone Marrow Toxicity, Implication for t-AML, and Action framework, (2009.9) (Munich)

(薬品部)

- 四方田千佳子

生物学的同等性と溶出試験

第19回製剤機会研究会

(2009.10)名古屋

我が国における溶出試験の生物学的同等性試験への活用と最近の溶出試験に関する動きについて

- 四方田千佳子

ジェネリック医薬品品質情報検討会における溶出試験について

第46回佐賀薬事指導協議会

(2009.10)佐賀

ジェネリック医薬品品質情報検討会の最近の動きと, 溶出試験の取り扱いについて概説した.

(生物薬品部)

- 佐野琴音^{*1}, 宮本泰則^{*1}, 川崎ナナ, 橋井則貴, 伊藤さつき, 横山三紀^{*2}, 佐藤ちひろ^{*3}, 北島 健^{*3}, 小川温子^{*1}

^{*1}お茶の水女子大学大学院, ^{*2}東京医科歯科大学, ^{*3}名古屋大学大学院

肝再生時ラットビトロネクチンの糖鎖構造と肝星細胞接着伸展における糖鎖の影響

第82回日本生化学会大会(2009. 10)(神戸)

- 山口圭子^{*1}, 大坪和明^{*1}, 荒川健司^{*1}, Kay-Hooi Khoo^{*2}, 川崎ナナ, 中尾広美^{*1}, 野中元裕^{*1}, Bruce Yong Ma^{*1}, 川崎伸子^{*1}, 川崎敏祐^{*1}

^{*1}立命館大学, ^{*2} Sinica大学

CD26/DPPIVの糖鎖構造と酵素活性に関する研究

第82回日本生化学会大会(2009. 10)(神戸)

- 横田直人*, 片岡陽平*, 橋井則貴, 川崎ナナ, 澤田 均*

*名古屋大学大学院

マボヤ20Sプロテアソームのα6サブユニットは精子, 卵, 筋肉で異なっている

第82回日本生化学会大会(2009. 10)(神戸)

- 小川裕子^{*1}, 三浦ゆり^{*2}, 原園 景, 金井正美^{*3}, 戸田年総^{*2}, 遠藤玉夫^{*2}, 山口照英, 天野カオリ^{*3}, 秋元義弘^{*3}, 川上速人^{*3}, 津吹政可^{*1}, 矢ノ下良平^{*1}

^{*1}星薬科大学, ^{*2}東京都健康長寿医療センター研究所, ^{*3}杏林大学

ヒト唾液中に存在する2種類のエキソソームのプロテオーム解析

第82回日本生化学会大会(2009. 10)(神戸)

- 鈴木琢雄, 石井明子, 多田 稔, 小林 哲, 豊田淑江, 川西 徹, 山口照英

抗体医薬品およびFcドメイン融合タンパク質医薬品のFc受容体(FcRnおよびFcγRI)との結合特性比較

第82回日本生化学会大会(2009. 10)(神戸)

- 北川博子, 豊田淑江, 石井明子, 鈴木琢雄, 多田 稔, 小林 哲, 山口照英
血管内皮前駆細胞であるEarly EPCの機能解析

第82回日本生化学会大会(2009. 10)(神戸)

- 多田 稔, 伊藤さつき, 川崎ナナ, 石井明子, 鈴木琢雄, 小林 哲, 豊田淑江, 山口照英

Notchリガンド糖タンパク質Jagged1のAlagille症候群関連変異体の機能解析

第82回日本生化学会大会(2009. 10)(神戸)

- 日向須美子*, 日向昌司, 花輪壽彦*

*北里大 東洋医学研究所

Maoto, a kampo medicine, suppresses the HGF-induced cell motility and scattering by inhibition of MET phosphorylation(麻黄湯はMETのリン酸化を阻害することでHGFにより誘導される細胞運動と細胞分散を抑制する)

第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)

- 川見祥代*¹, 辻川宗雄*², 柚木幹弘*², 山口照英, 生田和良*², 萩原克郎*¹

*¹酪農学園大学, *²大阪大学

PEIビーズを用いたE型肝炎ウイルス(HEV)の高感度検出法の検討

第57回日本ウイルス学会総会(2009.10)(東京)

- 山口照英

**Japanese Regulatory Aspects on Quality, Safety and Efficacy of Follow-onBiologics
(バイオ後続品の品質・有効性・安全性確保に関する日本の考え方)**

“Current Advanced Statistical Issues in Clinical Trials—Biosimilars”
International Symposium in Taiwan

(2009.10)(台湾)

(生薬部)

- 羽田紀康*, 中島瑤子*, 竹田忠紘*, 木内文之*, 袴塚高志, 水沼周子, 勢 康代,
遠藤明仁, 中村高敏, 合田幸広

*慶応大学薬学部

**漢方製剤の品質評価に関する基礎的検討(1)
品質評価指標としての漢方処方エキス収量**

日本生薬学会第56回年会(2009.10)(京都)

- 袴塚高志, 水沼周子, 中村高敏, 合田幸広, 羽田紀康*, 竹田忠紘*, 木内文之*

*慶応大学薬学部

**漢方製剤の品質評価に関する基礎的検討(2)
スプレードライ調製の漢方処方エキスにおけるエキス収量**

日本生薬学会第56回年会(2009.10)(京都)

- 菊地博之, 内山奈穂子, 緒方 潤, 花尻(木倉)瑠理, 合田幸広

植物系違法ドラッグ製品の成分分析及び植物種の遺伝子解析

日本生薬学会第56回年会(2009.10)(京都)

- 馬紅*^{1,2}, 鄭美和*^{2,3}, 呂擘*⁴, 服部征雄*²

*¹南京中医薬大, *²富山大・和漢研, *³国立衛研, *⁴江蘇省中科院植物研

春至カプセルの生殖内分泌学的効果と作用メカニズム-第2報-

日本生薬学会第56回年会(2009.10)(京都)

- 若菜大悟, 川原信夫*¹, 細江智夫*², 河合賢一*², 合田幸広

*¹基盤研・薬植セ, *²星薬科大学

トウジン(党参)のアルカロイド成分

日本生薬学会第56回年会(2009.10)(京都)

- 石川和樹^{*1}, 板橋武史^{*1}, 細江智夫^{*1}, 河合賢一^{*1}, 滝澤香代子^{*2}, 矢口貴志^{*2}, 福島和貴^{*2}, 若菜大悟, 合田幸広

^{*1}星薬科大学, ^{*2}千葉大真菌医セ

***Asperugillus novofumigatus* より得られる新規環状ペプチド及びベンゾジアゼピン誘導体の構造**

日本生薬学会第56回年会(2009.10)(京都)

- 天倉吉章^{*1}, 好村守生^{*1}, 吉田隆志^{*1}, 川原信夫^{*2}, 若菜大悟, 合田幸広

^{*1}松山大, ^{*2}基盤研・薬植セ

トウジンの確認試験に関する検討

日本生薬学会第56回年会(2009.10)(京都)

- 内山奈穂子, 緒方 潤, 花尻(木倉)瑠理, 合田幸広

合成カンナビノイド含有植物系違法ドラッグ製品の分析

日本生薬学会第56回年会(2009.10)(京都)

- 丸山卓郎

遺伝子情報を利用した生薬の純度試験の改定について

大阪生薬協会技術部会特別講演

(社)大阪薬業クラブ(2009.10)(大阪)

- 合田幸広

健康食品の起源と品質

第18回健康食品フォーラム 国民の健康と健康食品の考察

全社協・灘尾ホール(2009.10)(東京)

(遺伝子細胞医薬部)

- 鈴木孝昌, 小原有弘^{*1}, 小木美恵子^{*2}, 田邊思帆里, 本間正充

^{*1}(独)医薬基盤研究所, ^{*2}金沢工業大学

8番染色体特異的CGHアレイ解析による各種がん細胞株での*c-myc*遺伝子領域増幅形式の解析

第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)

- 西田基宏*, 佐藤陽治, 上村 綾*, 仲矢 道雄*, 黒瀬 等*

*九州大学大学院薬学研究院・薬効安全性学

圧負荷によるP2Y6受容体-G12/13蛋白質経路を介した心臓の線維化

第82回日本生化学会大会(2009.10)(神戸)

(療品部)

- 迫田秀行, 石川 格, 脇谷滋之^{*1}, 天正恵治^{*2}, 佐藤道夫, 松岡厚子

^{*1}大阪市立大学, ^{*2}信州大学

人工関節用超高分子量ポリエチレンのフラクトグラフィに関する基礎的研究

第36回日本臨床バイオメカニクス学会(2009.10)(松山)

- 石川 格, 東藤 貢^{*1}, 松岡厚子, 土屋 利江^{*2}

^{*1}九州大学, ^{*2}大阪大学

下顎骨固定用プレートに加えられる変形の弾塑性有限要素解析

日本機械学会 第22回計算力学講演会(2009.10)(金沢)

- 石川 格, 迫田秀行, 菅野伸彦*, 松岡厚子

*大阪大学

光学式3Dデジタイザによる抜去人工股関節UHMWPEライナーの摩耗測定

第36回日本臨床バイオメカニクス学会(2009.10)(松山)

- 松岡厚子

レスベラトロールに関する最近の知見—細胞遺伝学的活性の視点から—

第82回日本生化学会大会シンポジウム (2009.10)(神戸)

- 松岡厚子

IANH round robin testの現状と今後の日本グループの対応について

第4回ナノ材料の社会需要プロジェクト研究会 (2009.10)(つくば)

(環境衛生化学部)

- 深町勝巳*, 徐結苟*, 二口充*, 飯郷正明*, 内野 正, 西村哲治, 広瀬明彦, 菅野 純, 津田洋幸*

*名古屋市立大学大学院医学研究科

フラーレン(C60)の肺発がんプロモーション作用

第68回日本癌学会学術総会 (2009.10.) (横浜)

- 津田洋幸*, 徐結苟*, 二口充*, 飯郷正明*, 深町勝巳*, レキサンダーデービッド*, 内野正, 西村哲治, 広瀬明彦, 菅野 純

*名古屋市立大学大学院医学研究科

二酸化チタン粒子によるラット肺発がん促進作用におけるマクロファージ産生ケモカインMIP 1 α の関与

第68回日本癌学会学術総会 (2009.10) (横浜)

- 杉本直樹, 多田敦子, 末松孝子*¹, 有福和紀*¹, 齋藤 剛*², 井原俊英*², 吉田雄一*³, 久保田領志, 山崎 壮, 河村葉子, 西村哲治

*¹日本電子, *²産総研計測標準, *³和光純薬

定量NMRを用いた天然有機化合物の絶対定量法の開発

第51回天然有機化合物討論会 (2009.10) (名古屋)

- Nishimura, T., Kubota, R., Tahara, M., Shimizu, K., Sugimoto, N.

Occurrence of pharmaceuticals and Personal care products in aquatic environment in Japan and their behavior in water purification process (日本の水環境中の医薬品類や生活衛生製品由来の化学物質の存在実態とそれら化学物質の浄水処理工程の挙動)

3rd IWA ASPIRE Conference & Exhibition (2009.10) (Taipei)

(食品部)

- 坂井隆敏, 根本 了, 松田りえ子

LC-MS/MSを用いたはちみつ中のキノロン系合成抗菌物質の分析法

第98回日本食品衛生学会学術講演会(2009.10)(函館)

- 堤 智昭, 等々力節子*, 根井大介*, 石井利華, 渡邊敬浩, 松田りえ子

*(独)農研機構 食品総合研究所

アルキルシクロブタン法による放射線照射食品の検知

～ヨーロッパ標準分析法(EN1785)の動物性食品への適用検証～

第98回日本食品衛生学会学術講演会(2009.10)(函館)

- 渡邊敬浩, 松田りえ子

トータルダイエット試料の分析結果に基づく無機ならびに総ヒ素摂取量の推定

第98回日本食品衛生学会学術講演会 (2009.10) (函館)

- 橘田 規*, 黄 群騰*, 鈴木 剛*, 根本 了

*日本冷凍食品検査協会

畜水産物中のイソキサフルトールの分析

第98回日本食品衛生学会学術講演会 (2009.10) (函館)

- 高橋邦彦*, 石井里枝*, 松本隆二*, 根本 了, 松田りえ子

*埼玉県衛生研究所

LC-MS/MSによる農産物中のヒドラメチルノンの分析

第98回日本食品衛生学会学術講演会 (2009.10) (函館)

- 宮崎彩子*, 伊藤志保美*, 小木曾基樹*, 宮原 誠

*日本食品分析センター

炭化水素法による放射線照射肉類の検知に関する検討

第98回日本食品衛生学会学術講演会(2009.10)(函館)

- 渡邊敬浩

分析法の妥当性評価について

～その国際的な動向と我が国のガイドラインの運用と今後～

第32回農薬残留分析研究会 (2009.10)(松江)

食品中に含まれる種々の化学物質に基準が定められており、これへの適合判定を目的に分析(試験)が行われる。分析においてはその「質」が重要であり、これを確保するための取り組みの一部として分析法の妥当性評価が必須となる。本講演では国際的な動向も交え、我が国における妥当性評価の現在と今後について詳解する。

(食品添加物部)

- 箕川 剛, 久保田浩樹, 河崎裕美, 佐藤恭子, 河村葉子

食品中のステアロイル乳酸ナトリウム分析法の検討

第98回 日本食品衛生学会学術講演会 (2009. 10) (函館)

- 秋山卓美, 佐々木亮*¹, 山形一雄*¹, 棚元憲一*², 山崎壮, 河村葉子

*¹日本大学, *²武蔵野大学

既存添加物酵素の製品間差異と基原

第98回 日本食品衛生学会学術講演会 (2009. 10) (函館)

- 多田敦子, 石附京子, 小山朗夫*¹, 深井俊夫*², 秋山卓美, 山崎 壮, 河村葉子

*¹(独)農業生物資源研究所, *²横浜薬科大学

既存添加物クワ抽出物中の成分と基原の検討

第98回 日本食品衛生学会学術講演会 (2009. 10) (函館)

- 石附京子, 多田敦子, 高橋 加奈, 杉本直樹, 松本 清*¹, 受田浩之*², 松藤 寛*³, 山崎 壮, 河村葉子

*¹九州大学大学院, *²高知大学, *³日本大学

LC/MSによる既存添加物ドクダミ抽出物中の成分の定量と抗酸化活性測定

第98回 日本食品衛生学会学術講演会 (2009. 10) (函館)

- 六鹿元雄, 山口未来, 河村葉子

ほ乳用乳首からのN-ニトロソアミン類の溶出

第98回 日本食品衛生学会学術講演会 (2009. 10) (函館)

- 阿部 裕, 六鹿元雄, 河村葉子

ポリ塩化ビニル製玩具中の6種類のフタル酸エステル試験法のバリデーション

第98回 日本食品衛生学会学術講演会 (2009. 10) (函館)

- 河村葉子

食品用器具・容器包装の安全性向上をめざして

日本食品化学学会 第25回食品化学シンポジウム (2009.10) (東京)

(食品衛生管理部)

- 東方美保*¹, 斎藤博之*², 白土東子*³, 田中智之*⁴, 野田 衛

*¹福井県衛生環境研究センター, *²秋田県健康環境センター, *³国立感染症研究所,

*⁴堺市衛生研究所

パンソルビン・トラップ法により汚染食品から濃縮回収したノロウイルスの遺伝子検出条件の検討

第57回日本ウイルス学会学術総会 (2009.10) (東京)

- 斎藤博之^{*1}, 東方美保^{*2}, 白土東子^{*3}, 田中智之^{*4}, 野田 衛
^{*1}秋田県健康環境センター, ^{*2}福井県衛生環境研究センター, ^{*3}国立感染症研究所,
^{*4}堺市衛生研究所

食品のノロウイルス検査に向けたパンソルビン・トラップ法の実用化の検討

第57回日本ウイルス学会学術総会(2009.10)(東京)

- 野田 衛, 阿部勝彦^{*1}, 伊藤文明^{*1}, 山本美和子^{*1}, 吉澄志磨^{*2}, 植木 洋^{*3}, 庄司美加^{*3}, 大金映子^{*4}, 坂野智恵子^{*5}, 古屋由美子^{*6}, 足立 聡^{*7}, 滝澤剛則^{*8}, 中村一哉^{*8}, 左近(田中)直美^{*9}, 中田恵子^{*9}, 入谷展弘^{*10}, 福田伸治^{*11}, 松本知美^{*12}, 中川(岡本)玲子^{*12}, 大塚有加^{*13}, 山下育孝^{*13}, 西尾 治^{*14}

^{*1}広島市衛生研究所, ^{*2}北海道立衛生研究所, ^{*3}宮城県保健環境センター, ^{*4}栃木県保健環境センター, ^{*5}群馬県衛生環境研究所, ^{*6}神奈川県衛生研究所, ^{*7}静岡県環境衛生科学研究所, ^{*8}富山県衛生研究所, ^{*9}大阪府立公衆衛生研究所, ^{*10}大阪市立環境科学研究所, ^{*11}広島県立総合技術研究所保健環境センター, ^{*12}山口県環境保健センター, ^{*13}愛媛県立衛生環境研究所, ^{*14}国立感染症研究所

カキからのウイルス検出法のコラボスタディによる評価と課題

第98回日本食品衛生学会学術講演会(2009.10)(函館)

- 吉田徹也^{*}, 粕尾しず子^{*}, 畔上由佳^{*}, 内山友里恵^{*}, 笠原ひとみ^{*}, 上田ひろみ^{*}, 長瀬博^{*}, 藤田 暁^{*}, 野田 衛
^{*}長野県環境保全研究所

掃除機内ダストからのノロウイルス検出法の検討およびノロウイルス、サポウイルスの汚染実態調査

平成21年度地方衛生研究所全国協議会第24回関東甲信静支部ウイルス研究部会(2009.10)(東京)

- 竹村 塁^{*1}, 長田共未^{*1}, 岡田由美子, 豊留敏郎^{*1}, 澤田千尋^{*1}, 齋藤利江^{*1}, 小沼博隆^{*2}, 五十君静信, 春日文子

^{*1}財団法人日本冷凍食品検査協会, ^{*2}東海大学海洋学部

冷凍食品及びその他の冷凍流通食品の微生物汚染実態調査

第30回日本食品微生物学会(2009.10)(東京)

- 吉田朋高^{*1}, 岡田由美子, 松岡英明^{*2}, 五十君静信
^{*1}財団法人食品分析開発センター, ^{*2}東京農工大学

黄色ブドウ球菌標準試験法(直接平板法とMPN法)のコラボスタディデータの統計学的考察

第30回日本食品微生物学会(2009.10)(東京)

- 飯田奈都子^{*1}, 小澤一弘^{*2}, 三輪憲永^{*3}, 増田高志^{*4}, 杉山寛治^{*1}, 川森文彦^{*1}, 廣井みどり^{*1}, 森田妃美子^{*2}, 小沼博隆^{*5}, 岡田由美子, 春日文子

^{*1}静岡県環境衛生科学研究所, ^{*2}(株)中部衛生検査センター, ^{*3}東海大学短期大学部, ^{*4}静岡県西部食肉検査所, ^{*5}東海大学海洋学部

冷凍流通食品の微生物汚染実態調査および流通温度帯におけるリステリアの挙動

第30回日本食品微生物学会(2009.10)(東京)

- 野田 衛

食品中のウイルス制御に関する国際動向および研究の現況と今後の課題

平成21年度地方衛生研究所全国協議会第24回関東甲信静支部ウイルス研究部会(2009.10)(東京)

コーデックス委員会を中心とした食品中のウイルスの制御に関する国際動向および食品からのウイルス検出法, 食中毒調査におけるシーケンス検査を中心に研究の現況と今後の課題について概説した。

- 野田 衛

食品事業者のウイルス対策-ノロウイルスから新型インフルエンザまで
食品開発展2009記念セミナー
(2009.10)(東京)

全食中毒患者の約半数を占め、食品事業者にとって最も対策が必要なノロウイルスおよび個人の健康被害に止まらず、事業者や社会全体に大きな経済的損失をもたらす新型インフルエンザを中心に食品事業者のウイルス対策を概説した。

- 野田 衛

食品中のウイルス制御に関する国際動向
日本食品微生物学会30周年記念学術総会
(2009.10)(東京)

コーデックス委員会を中心とした食品中のウイルスの制御に関する国際動向について概説した。

(衛生微生物部)

- 菊池 裕, 中島治, 豊田淑江, 手島玲子, 小西良子, 山口照英

低酸素条件下で誘導されるGPIアンカー欠損型プリオン蛋白質の発現解析
第82回日本生化学会大会(2009.10)(神戸)

- 大西貴弘, 後藤慶一*, 尾上洋一, 渡辺麻衣子, 小西良子, 工藤由起子

*三井農林株式会社

清涼飲料水における微生物を原因とする苦情事例の解析
第98回日本食品衛生学会(2009.10)(函館)

- 大西貴弘, 宮原美知子, 工藤由起子, 鎌田洋一, 小沼博隆*¹, 高鳥浩介*², 尾上洋一*³, 小西良子

*¹東海大学, *²NPO法人カビ相談センター, *³華学園栄養専門学校

我が国における過去10年間の食品中食中毒菌汚染実態調査
第30回日本食品微生物学会(2009.10)(東京)

- 渡辺麻衣子, 李 謙一*¹, 後藤慶一*², 熊谷 進*¹, 小西良子, 工藤由起子

*¹東京大学大学院, *²三井農林株式会社

食品汚染にかかわる真菌からの迅速な大量DNA抽出方法
日本食品衛生学会第98回学術講演会(2009.10)(函館)

- 大塚佳代子*¹, 森田幸雄*², 宮坂次郎*³, 門脇奈津子*¹, 伊豫田淳*⁴, 小林秀樹*⁵, 工藤由起子

*¹埼玉県衛生研究所, *²群馬県衛生環境研究所, *³熊本県食肉衛生検査所, *⁴国立感染症研究所, *⁵動物衛生研究所

焼肉を介した腸管出血性大腸菌食中毒リスクの検討
日本食品衛生学会第98回学術講演会(2009.10)(函館)

- 大友良光*¹, 杉山寛治*², 齋藤志保子*³, 大塚佳代子*⁴, 八尋俊輔*⁵, 山中葉子*⁶, 山崎省吾*⁷, 田中廣行*⁸, 川村美佐子*⁸, 中川 弘*⁹, 小沼博隆*¹⁰, 熊谷 進*¹¹, 小西良子, 工藤由起子

*¹弘前大学大学院保健学研究科, *²静岡県環境衛生科学研究所, *³秋田県健康環境センター, *⁴埼玉県衛生研究所, *⁵熊本県保健環境科学研究所, *⁶三重県保健環境研究所, *⁷長崎県環境保健研究センター, *⁸日本食品分析センター, *⁹株式会社BMLフード・サイエンス, *¹⁰東海大学海洋学部, *¹¹東京大学大学院農学生命科学研究科

腸炎ビブリオの魚介類汚染状況とTDH陽性株の解析
日本食品衛生学会第98回学術講演会(2009.10)(函館)

- 土屋 禎^{*1}, 田中廣行^{*1}, 鈴木達也^{*2}, 大島赴夫^{*2}, 渡邊敬浩, 松田りえ子, 松岡英明^{*3}, 工藤由起子
^{*1}(財)日本食品分析センター, ^{*2}(財)食品薬品安全センター, ^{*3}東京農工大学大学院
技能試験データに基づく細菌数の不確かさの推定
 第30回日本食品微生物学会学術総会(2009.10)(東京)
- 森 哲也^{*1}, 田中廣行^{*2}, 和田真太郎^{*1}, 伊藤 武^{*1}, 宇田川藤江^{*2}, 工藤由起子
^{*1}(財)東京顕微鏡院, ^{*2}(財)日本食品分析センター
カット野菜, カット果実およびスプラウトの微生物汚染に関する検討
 第30回日本食品微生物学会学術総会(2009.10)(東京)
- 李 謙一^{*}, 渡辺麻衣子, 小西良子, 工藤由起子, 熊谷 進^{*}
^{*1}東京大学大学院農学生命科学研究科
チーズスターターカビPenicillium camembertiによる腸管出血性大腸菌の増殖促進効果
 第30回日本食品微生物学会学術総会(2009.10)(東京)
- 矢部美穂^{*1}, 山崎省吾^{*2}, 大塚佳代子^{*3}, 杉山寛治^{*4}, 齋藤志保子^{*5}, 八尋俊輔^{*6}, 大友良光^{*7}, 山中葉子^{*8}, 田中廣行^{*9}, 中川 弘^{*1}, 小沼博隆^{*10}, 熊谷 進^{*11}, 小西良子, 工藤由起子
^{*1}(株)BMLフード・サイエンス, ^{*2}長崎県衛生公害研究所, ^{*3}埼玉県衛生研究所, ^{*4}静岡県環境衛生科学研究所, ^{*5}秋田県健康環境センター, ^{*6}熊本県保健環境科学研究科, ^{*7}弘前大学大学院, ^{*8}三重県保健環境研究所, ^{*9}(財)日本食品分析センター, ^{*10}東海大学海洋学部, ^{*11}東京大学大学院生命科学研究科
国内産のアジ及びアサリにおける腸炎ビブリオの汚染調査
 第30回日本食品微生物学会学術総会(2009.10)(東京)
- 斉藤史朗^{*1}, 佐藤敏彦^{*2}, 熊谷 進^{*3}, 中島正博^{*4}, 田端節子^{*5}, 青山幸二^{*6}, 法月廣子^{*7}, 和田丈晴^{*8}, 伊藤嘉典, 小西良子
^{*1}東京大学大学院, ^{*2}北里大学医学部, ^{*3}東京大学・食の安全研究センター, ^{*4}名古屋市衛生研究所, ^{*5}東京都健康安全研究センター, ^{*6}(独)農林水産消費安全技術センター, ^{*7}(財)日本穀物検定協会, ^{*8}(財)化学物質評価研究機構
我が国における小麦類からのオクラトキシンAの摂取量評価
 第98回日本食品衛生学会(2009.10)(函館)
- 田村千佳子, 杉山圭一, 鎌田洋一, 小西良子, 中馬 誠^{*1}, 門田智之^{*2}, 西島基弘^{*3}
^{*1}三栄源エフ・エフ・アイ(株), ^{*2}キリンホールディングス(株), ^{*3}実践女子大学
低メキシルペクチンのゲル化を利用したカビ毒の封入効果
 第98回日本食品衛生学会(2009.10)(函館)
- 青山幸二^{*1}, 中島正博^{*2}, 法月廣子^{*3}, 小木曾基樹^{*4}, 甲斐茂美^{*5}, 田端節子^{*6}, 山口茂明^{*7}, 和田丈晴^{*8}, 田中敏嗣^{*9}, 伊藤嘉典, 小西良子
^{*1}(独)農林水産消費安全技術センター, ^{*2}名古屋市衛生研究所, ^{*3}(財)日本穀物検定協会, ^{*4}(財)日本食品分析センター, ^{*5}神奈川県衛生研究所, ^{*6}東京都健康安全研究センター, ^{*7}(財)日本冷凍食品検査協会, ^{*8}(財)化学物質評価研究機構, ^{*9}神戸市環境保健研究所
日本に流通する食品中のオクラトキシンAおよびフモニシン汚染実態調査(平成20年度)
 第98回日本食品衛生学会(2009.10)(函館)
- 水谷紀子, 室井正志^{*}, 五十嵐ありさ, 菅野慎二, 鎌田洋一, 小西良子, 棚元憲一
^{*}武蔵野大学薬学部薬学科

非病原性細菌による感染症に対する内分泌かく乱候補物質の影響評価

第16回日本免疫毒性学会(2009.9)(旭川)

- 佐久間久子, 鎌田洋一, 吉田朋高^{*1}, 片岡洋平, 小林政人, 井越敬司^{*2}, 小西良子^{*1}
食品開発分析センターSUNATEC, ^{*2}九州東海大学
アフラトキシンM₁の乳からチーズへの移行に関する検討
日本食品衛生学会第98回学術講演会(2009.10)(函館)
- 菅野慎二, 安形則雄^{*1}, 川上 浩^{*2}, 小西良子, 鎌田洋一^{*1}
名古屋市衛生研究所, ^{*2}共立女子大学
培養細胞を用いたセレウス菌嘔吐毒素の検出方法の改良
日本食品衛生学会第98回学術講演会(2009.10)(函館)
- 田端瑞毅^{*1}, 宮本優也^{*2,3}, 辻 裕明^{*2}, 西村重徳^{*2}, 鎌田洋一, 乾隆^{*2}
^{*1}大阪府立大学, ^{*2}大阪府立大学大学院, ^{*3}学振特別研究員
イヌアレルギーCan f 1およびCan f 2の構造解析
第82回日本生化学会(2009.10)(神戸)
- 杉山圭一, 室井正志^{*}, 棚元憲一^{*}, 小西良子^{*}
武蔵野大学
TLRシグナルに対するdeoxynivalenolの抑制機構
第82回日本生化学会大会(2009.10)(神戸)
- Koyama, D.^{*1}, Arai, S.^{*1}, Kamata, Y., Nakajima, T.^{*2}, Sugita-Konishi, Y., Itoh, S.^{*1}
^{*1}Dept. of Internal Medicine 1 Azabu University, School of Veterinary Science,
^{*2}National Agricultural Research Center for Kyusyu Okinawa Region
Study on the toxicokinetics of deoxynivalenol in swine
アジア養豚獣医学会(APVS2009)(2009.10)(つくば市)
- 王麗麗^{*1}, 涌嶋三津子^{*1}, 青田 徹^{*1}, 日高あゆみ^{*1}, 藤原佐美^{*1,2}, 前原智史^{*3}, 木太俊雅^{*4}, 小笠原準^{*5}, 長谷 篤^{*5}, 鎌田洋一, 西川貞一^{*1}
**^{*1}大阪市大, ^{*2}生活衛生協会, ^{*3}大阪市中央卸売市場, ^{*4}大阪市食検, ^{*5}大阪市環
科研**
**疎水性格子膜を用いたコロニーハイブリダイゼーションによる下痢原性大腸菌の網羅
的釣菌分離法の開発**
The 9th Awaji International Forum on Infection and Immunity (2009.9)(淡路)
- 小西良子
アフラトキシンのリスク評価及び基準設定の動向
東京輸入食品等衛生協議会第23回総会
(2009.10)(東京)
- 小西良子
カビ毒の汚染と食品衛生管理に関わる試験法について
静岡県平成21年度食品衛生監視員研修会
(2009.10)(静岡)
- 小西良子
ニバレノールの毒性と規制
国際シンポジウム 食の安全と健康増進(International Symposium Food Safety and
Health Promotion)
(2009.10)(東京)

(有機化学部)

- 今井耕平^{*1, 2}, 中西郁夫^{*3, 4}, 安西和紀^{*3}, 奥田晴宏^{*2}, 中村朝夫^{*1}, 福原潔^{*2}
^{*1}芝浦工大院工, ^{*2}国衛研, ^{*3}放医研, ^{*4}大阪大学院工, SORST
カテコール骨格固定型カテキン誘導体の合成

第53回日本薬学会関東支部大会(2009.10)(埼玉)

(機能生化学部)

- 内藤幹彦

Regulation of Cell Death and Cell Cycle by IAPs. (IAPによる細胞死, 細胞周期の制御)

第14回分生研シンポジウム(2009.11)(東京)

- Maekawa, K., Harakawa, N., Sugiyama, E., Tohkin, M., Kim, S.R., Kaniwa, N., Katori, N., Hasegawa, R., Naito, M., Okuda, H., Yasuda, K.^{*1}, Kamide, K.^{*2}, Miyata, T.^{*3}, Saito, Y., and Sawada, J.

^{*1} 国立国際医療センター, ^{*2} 大阪大学, ^{*3} 国立循環器病センター

Substrate-Dependent Functional Alterations of Seven CYP2C9 Variants Found in Japanese Subjects (日本人で見出される薬物代謝酵素CYP2C9の7種の変異アレルの基質依存性の活性変化)

16th North American Regional ISSX Meeting (2009.10) (Baltimore)

- Sai, K., Saito, Y., Tatewaki, N., Hosokawa, M.^{*1}, Kaniwa, N., Nishimaki-Mogami, T., Naito, M., Sawada, J., Shirao, K.^{*2}, Hamaguchi, T.^{*2}, Yamamoto, N.^{*2}, Kunitoh, H.^{*2}, Ohe, Y.^{*2}, Tamura, T.^{*2}, Yamada, Y.^{*2}, Yoshida, T.^{*3}, Minami, H.^{*4}, Ohtsu, A.^{*4}, Matsum

^{*1} Chiba Institute of Science, ^{*2} National Cancer Center Hospital, ^{*3} National Cancer Center Research Institute, ^{*4} National Cancer Center Hospital East

Association of carboxylesterase 1A genotypes with irinotecan pharmacokinetics in Japanese cancer patients (日本人癌患者のカルボキシルエステラーゼ遺伝子型によるイリノテカン薬物動態への影響)

The 16th North American Regional ISSX Meeting (2009.10) (Baltimore)

(代謝生化学部)

- 中村亮介, 内田好海, 樋口雅一, 中村里香, 手島玲子

培養マスト細胞株の活性化に基づく新しい高感度アレルギー試験法の開発
第82回日本生化学会(2009.10)(神戸)

- 中村里香, 中村亮介, 渡邊佳代子*, 三島 敏*, 手島玲子

*アピ(株)長良川リサーチセンター

プロポリスの抗アレルギー作用

第82回日本生化学会大会(2009.10)(神戸)

- 近藤一成, 小櫃冴美, 手島玲子

共役トリエン, テトラエン脂肪酸によるカズパーゼ非依存性の神経細胞死

第82回日本生化学会大会(2009.10)(神戸)

- 中村公亮, 穂山浩, 河野徳昭^{*1}, 吉松嘉代^{*1}, 近藤一成, 真野潤一^{*2}, 橘田和美^{*2}, 手島玲子

^{*1}(独)医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター, ^{*2}(独)農研機構 食品総合研究所 食品分析研究領域

もち米試料中のトリブシンインヒビター遺伝子を導入した中国産安全性未審査遺伝子組換えコメの解析とその検知技術の開発について

第98回日本食品衛生学会学術講演会(2009.10)(函館)

- 穂山 浩, 牧山太樹, 佐々木伸大^{*1}, 近藤一成, 中村公亮, 峯岸恭孝^{*2}, 真野潤一^{*3}, 橘田和美^{*3}, 小関良宏^{*1}, 手島玲子

^{*1}東京農工大学, ^{*2}(株)ニッポンジーン, ^{*3}(独)農研機構 食品総合研究所

カナダ産未承認遺伝子組換えナタネの検知法について(第二報)

第98回日本食品衛生学会学術講演会(2009.10)(函館)

- 秋田涼子*, 小泉大輔*, 織田浩司*, 清木興介*, 酒井信夫, 安達玲子, 穂山 浩, 手島玲子
 *(株) マルハニチロホールディングス
イムノクロマト法による甲殻類原材料検出キットの開発
 第98回日本食品衛生学会学術講演会 (2009.10)(函館)
 - 小泉大輔*¹, 清木興介*¹, 織田浩司*¹, 中村健人*², 酒井信夫, 穂山 浩, 安達玲子, 手島玲子
 *¹(株) マルハニチロホールディングス, *²(株) ファスマック
加工食品中に混入する甲殻類タンパク質について
 第98回日本食品衛生学会学術講演会 (2009.10)(函館)
 - 中島 治, 穂山 浩, 手島玲子
リアルタイムPCRを用いた遺伝子組換えウシに由来する肉の検知法について
 第98回日本食品衛生学会学術講演会 (2009.10)(函館)
 - Hiroo Amano*, Izumi Negishi*, Hiroshi Akiyama, Osamu Ishikawa*
 *群馬大学皮膚科
Brain opioid receptor responses to psychological stress in atopic dermatitis model mice (アトピー性皮膚炎モデルマウスにおける精神的ストレスに対する脳オピオイドレセプターレスポンス)
 5th International Workshop for the Study of ITCH(2009.10)(Tokyo)
 第5回国際かゆみワークショップ(2009,10)(東京)
 - 手島玲子
先端技術を用いた作物・食品等の安全性評価と受容性
 BioJapan 2009 -World Business Forum- 「バイオによる食糧問題の革新」
 (2009.10)(横浜)
 バイオによる食糧問題の革新を考えるシンポジウムにおいて遺伝子組換え作物・食品の安全性評価とコミュニケーションについて講演を行った。
 - 手島玲子
遺伝子組換え食品の安全性評価の実際
 第53回日本薬学会関東支部大会
 (2009.10)(埼玉)
 衛生系薬学「生を衛る」ということをテーマにして行われた日本薬学会関東支部大会において、遺伝子組換え食品の安全性評価の実際について講演を行った。
- (医薬安全科学部)
- Tohkin, M., Kaniwa, N., Kurose, K., Saito, Y., Aihara, M. *¹, Matsunaga, K. *², Takahashi, Y. *³, Furuya, H. *⁴, Muramatsu, M. *⁵, Kinoshita, S. *⁶, Ikezawa, Z. *¹, Hasegawa, R., JSAR Research Group
 *¹Yokohama City University Graduate School of Medicine, *²Fujita Health University School of Medicine, *³National Epilepsy Center, *⁴National Omuta Hospital, *⁵Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan, *⁶Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto, Japan
EXPLORATORY STUDY OF GENETIC BIOMARKERS ASSOCIATED WITH DRUG-INDUCED STEVENS-JOHNSON SYNDROME AND TOXIC EPIDERMAL NECROLYSIS IN JAPANESE PATIENTS (医薬品によるスティーブンス・ジョンソン症候群／中毒性表皮壊死症の発症と関連する日本人患者での遺伝子バイオマーカーの探索)
 The 16th Annual ISSX North American Regional Meeting (International Society for the Study of Xenobiotics) (2009.10)(Balltimore)
 第16回北米薬物動態学会(2009, 10)(ボルチモア)

- Saito, Y., Fukushima-Uesaka, H., Katori, N., Kurose, K., Maekawa, K., Kaniwa, N., Hasegawa, R., Sawada, J., Yamamoto, N.^{*1}, Kunitoh, H.^{*1}, Nokihara, H.^{*1}, Sekine, I.^{*1}, Ohe, Y.^{*1}, Yoshida, T.^{*2}, Tamura, T.^{*1}, Saijo, N.^{*3}, Matsumura, Y.^{*3}, Okuda, H.

^{*1}National Cancer Center Hospital, ^{*2}National Cancer Center Research Institute, ^{*3}National Cancer Center Hospital East

Genetic polymorphisms of cytochrome P450 oxidoreductase gene (POR) in Japanese population (日本人におけるシトクロムP450還元酵素遺伝子(POR)の遺伝的多型)

The 16th Annual ISSX North American Regional Meeting (International Society for the Study of Xenobiotics) (2009.10) (Balltimore)

(毒性部)

- 平林容子, 川崎 靖, 尹 秉一^{*1}, 壺井 功^{*2}, 菅野 純, 井上 達

^{*1}韓国国立江原大校, ^{*2}日本大学

p53欠失C57BL/6とC3H/He両系におけるベンゼンの間歇吸引曝露によるマウスの造血器腫瘍の特徴の比較

第71回日本血液学会総会(2009.10) (京都)

- 菅野 純

ナノマテリアルの毒性—発がん性を中心に

第68回日本癌学会学術総会 (2009.10)(横浜)

- Kanno, J., Takagi, A., Nishimura, T., Hirose, A..

Long-term animal testing of nanoparticles for detection of chronic toxicity (ナノ粒子による慢性影響評価のための長期毒性試験)

4th International Conference on Nanotechnology - Occupational and Environmental Health(NanOE2009)(2009.8)(Helsinki)

第4回ナノテクノロジーの労働および環境健康影響に関する国際会議 (2009.8)(ヘルシンキ)

- Kanno, J., Takagi, A., Hirose, A., Nishimura, T., Fukumori, N.^{*}, Ogata, A.^{*}, Ohashi, N.^{*}, Kitajima, S.

^{*}Tokyo Metropolitan Institute of Public Health(東京都健康安全研究センター)

Induction of mesothelioma in p53+/- mouse by intraperitoneal application of multi-wall carbon nanotube (多層カーボンナノチューブのp53ヘテロ欠失マウス腹腔内投与による中皮腫の誘発)

The 5th International Congress of Asian Society of Toxicology (ASITOX V)(2009.9)(Taipei)

アジア毒性学会第五回会議(2009.9) (台北)

- 菅野 純

カーボンナノチューブの生体への影響—先端素材の安全の問題の一考察例として—
日本学術振興会「材料の微細組織と機能性」第133委員会第203回研究会
東京理科大学理窓会館(2009.10)

ナノマテリアルとしてその応用が期待されるカーボンナノチューブの生体に対する影響について

- 菅野 純

Nanomaterial toxicology -chronic toxicity assessment (ナノマテリアル毒性学—長期毒性評価)

Horiba/CDBIM Symposium(堀場国際学会/疾患生命工学センターシンポジウム)

東京大学鉄門講堂 (2009.10)

ナノマテリアルの安全性研究は近年、その重要性が認められ、その報告件数も増加してきている。しかし、暴露後の短期間における影響に関するものが未だに多く、評価に時間のかかる慢性影響の知見は少ない。その中で、多層カーボンナノチューブ (MWCNT) を用いて行った中皮腫誘発性についての慢性暴露研究を行った。

(薬理部)

- 諫田泰成
グリオーマにおけるGPR30の機能解析
日本生化学会 (2009.10)(神戸)
- 佐藤 薫, 高橋華奈子^{*1}, 石井一野澤玲子^{*1}, 竹内幸一^{*1}, 中澤憲一, 大野泰雄^{*1}
^{*1}明治薬科大学
Two NSAIDs, niflumic acid and diclofenac, inhibit the human glutamate transporter EAAT1 through distinct mechanisms. (二種類の NSAIDs, ナイフルミック酸とジクロフェナクはヒトグルタミン酸トランスポーターEAAT1 を異なるメカニズムで阻害する.)
SFN2009 (2009.10) (Chicago)
北米神経科学学会 (2009.10)(シカゴ)
- 小島 肇
動物実験代替法の国内外の状況
日本薬学会 関東支部大会(2009.10)(埼玉)
- 小島 肇
In vitroによる皮膚および眼刺激性試験開発の状況
第22回動物細胞工学シンポジウム「In vitro安全性・機能性評価及び作用メカニズム・新規物質探索研究の最前線 (2009.10)(東京)
- 小島 肇
医薬部外品の承認申請における安全性に関する資料のあり方検討会
日本産業皮膚衛生協会 秋季研修会 (2009.10)(京都)
- Kojima, H.
Japanese views in the 3Rs in the 21st century (21世紀の3Rsにおける日本の視点)
ZEBET's 20th Anniversary Symposium (2009.10) (Berlin)
動物実験代替法検証センターの20周年シンポジウム (2009.10)(ベルリン)

(病理部)

- 戸塚ゆ加里^{*1}, 今井俊夫^{*1}, 西川秋佳, 能美健彦, 川西優喜^{*2}, 八木孝司^{*2}, 市瀬孝道^{*3}, 杉村隆^{*1}, 若林敬二^{*1}
^{*1}国立がんセンター, ^{*2}大阪府大, ^{*3}大分看護大
ナノ粒子により誘発された遺伝毒性: *in vitro*小核, *in vivo*コメントおよび変異原性の解析
第68回日本癌学会学術総会 (2009.10) (横浜)
- Choi, J.-H. *, Yu, M.-H. *, Chae, I.-K. *, Lee, E.-J. *, Yang, S.-A. *, Kim, H.-I. *, Lee, S.-P. *, Nishikawa, A., Lee, I.-S. *
^{*}Keimyung University
Anti-inflammatory effect of Terminalia chebula Retzius on LPS-stimulated RAW 264.7 cells (LPS刺激RAW 264.7細胞におけるTerminalia chebula Retziusの抗炎症効果)
第68回日本癌学会学術総会 (2009.10) (横浜)
- 梅村隆志, 石井雄二, 井上知紀, 金 美蘭, 鈴木裕太, 日比大介, 児玉幸夫, 能美健彦, 西川秋佳
フルメキン同時投与によるMeIQxの*in vivo*変異原性に及ぼす促進効果
第68回日本癌学会学術総会 (2009.10) (横浜)

- 石井雄二, 鈴木裕太, 日比大介, 金 美蘭, 福原 潔, 梅村隆志, 西川秋佳
Estragole特異的DNA付加体の同定と検出
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 金 美蘭, 鈴木裕太, 日比大介, 井上知紀, 石井雄二, 梅村隆志, 西川秋佳
アクリルアミドまたはウレタン投与による*nrf2*-欠損マウス肺における酸化的DNA損傷および細胞増殖
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 井上知紀, 田崎雅子, 石井雄二, 岡村俊也, 鈴木裕太, 金 美蘭, 日比大介, 能美健彦, 梅村隆志, 西川秋佳
Tocotrienol投与ラット肝における*in vivo*変異原性ならびにプロモーション作用の欠如
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 鈴木裕太, 岡村俊也, 日比大介, 石井雄二, 金 美蘭, 梅村隆志, 能美健彦, 西川秋佳
食品中のCYP1A2誘導剤によるIQの*in vivo*変異原性への複合影響
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 日比大介, 井上知紀, 鈴木裕太, 石井雄二, 金 美蘭, 梅村隆志, 西川秋佳
F344ラットを用いたレバミゾールの2年間発がん性試験
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 吉田緑, 小山直己, 井上 薫, 高橋美和, 坂本洋平, 武田賢和, 島田義也*, 西川秋佳
 *放射線医学総合研究所・放射線防護研究センター
幼児期ガンマ線照射による卵巣枯渇はラット子宮発がんを促進する
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 井上 薫, 吉田 緑, 高橋美和, 小澤正吾*¹, 根本清光*², 出川雅邦*², 西川秋佳
 *¹岩手医大・薬学部・薬物代謝動態, *²静岡県立大・薬学部・衛生分子毒性
ラットにおける肝肥大誘発化学物質による肝発がん過程への酸化的DNA損傷と細胞増殖の関与について
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 曹永晩, 今井俊夫*, 高見成昭, 西川秋佳
 *国立がんセンター研究所・実験動物管理室
F344ラットにおけるセイヨウワサビの膀胱発がん促進作用
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 高見成昭, 今井俊夫*¹, 曹永晩, 廣瀬雅雄*², 西川秋佳
 *¹国立がんセンター研究所・実験動物管理室, *²内閣府・食品安全委員会
抗甲状腺物質の乳幼児期投与によるラット甲状腺発がん感受性の低下
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)
 - 西川秋佳, 石井雄二, 井上 薫
食品添加物の安全性評価—特にアカネ色素の発がん成分の追究—
 第16回岐山毒性病理セミナー
 (2009.10)(岐阜)
 アカネ色素の成分中, ラット多臓器発がんモデルで腎臓, 肝臓および大腸を発がんの標的とし, ラット変異原性解析モデルで腎臓および肝臓に変異原性を示すものが確認された. さらに, LC-MS/MS法により, アカネ色素成分投与ラットに特異的付加体を検出し得た.
- (変異遺伝部)
- 豊田尚美, 井上知紀, 増村健一, 梅村隆志, 西川秋佳, 能美健彦
The aromatic amine 2,4-DAT induced point mutations in the target organ of carcinogenicity in F344 *gpt* delta rat (F344 *gpt* delta ratを用いた2,4-ジアミノトルエンによる発がん標的臓器における点突然変異の検出)
 第68回日本癌学会学術総会(2009.10)(横浜)

- 山田雅巳, 能美健彦

Screening of endogenous mutagens using YG3206, modified Ames tester strain (改変Ames試験菌株YG3206を用いた内在性の変異原物質の検索に関する研究)

第68回日本癌学会学術総会 (2009.10) (横浜)

- 佐々 彰, 新見直子, Petr Grúz, 太田敏博*, 能美健彦
*東京薬科大学

Roles of phenylalanine 171 residue in the translesion DNA synthesis by human DNA polymerase kappa (ヒトDNAポリメラーゼカッパによる損傷乗り越えDNA合成における171番目のフェニルアラニンの役割)

第82回 日本生化学会大会 (2009.10) (神戸)

- 本間正充, 高島良生, 坂本浩子, 櫻庭真弓, 小泉朋子, 林 真

DNA Double Strand Break Repair Pathways and Its Dependence on Cell Cycle Phases in Human Lymphoblastoid Cells (ヒトリンパ球細胞でのDNA2本鎖修復とその細胞周期依存性)

40th Annual Meeting of Environmental Mutagen Society (2009.10) (St, Louis)

- 山田雅巳, 松井恵子, 片渕 淳, 高宗万希子, 能美健彦

Development of Novel Salmonella typhimurium Tester Strain YG3206 for Selective Detection of the Mutagenicity of Oxidized DNA Pyrimidines (酸化ピリミジンの変異原生を選択的に検出する新規サルモネラ試験菌株YG3206の開発)

40th Annual Meeting of Environmental Mutagen Society (2009.10) (St, Louis)

- Sheh, A. *, Lee, C. *, Masumura, K., Rickman, B. *, Nohmi, T., Fox, J., Schauer, D. *
*マサチューセッツ工科大学

Duration of infection and gender affect *Helicobacter pylori*-mediated somatic mutations in C57BL/6 mice (C57BL/6マウスにおけるピロリ菌の感染期間および性差が突然変異誘発に与える影響)

15th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter and Related Organisms (2009.9) (Niigata)

(総合評価研究室)

- 広瀬明彦

化学物質の健康リスク評価法と規制基準の設定

第53回日本薬学会関東支部大会
シンポジウム4「衛生系薬学 生を衛る」

(2009.10) (東京)

一般的な工業用化学物質の健康影響評価を行う上で、法規制等で使用される基準値の設定の根拠となる1日耐容摂取量(TDI)の設定方法と基準値等への反映のさせ方および、関連する国際的な動向についてそれらの概要紹介を行った。

- 広瀬明彦

ナノマテリアルの慢性健康影響評価のための研究

ナノマテリアルの環境・健康影響評価および管理技術研究会
(2009.10) (名古屋)

産業用ナノマテリアルの健康影響評価法の開発に関する研究を行ってきた中で得られた特に動物実験を使った慢性影響について紹介すると共に、影響の強さを左右すると考えられる長期間の体内残留性について考察し、慢性影響研究の重要性を概説した。

- 広瀬明彦

衛研の有害性評価研究の取り組み状況

ナノテクセミナー2009 ～みんなで学ぼうリスク管理策～
(2009.10) (大阪)

国立医薬品食品衛生研究所が産業用ナノマテリアルに関する健康影響評価手法の開発研究において、これまで行ってきたことの紹介すると共に、当研究所が国際的にも最初にその研究成果を発表した繊維状ナノチューブの中皮腫誘発能確認試験について、その毒性学的背景について概説した。

- 広瀬明彦

器具・容器包装に用いられる合成樹脂の安全性評価

日本食品化学学会 第25回食品化学シンポジウム
「食品用器具・容器包装の安全性向上をめざして」

(2009.10) (東京)

平成17年度より食品安全委員会の食品健康影響評価技術研究として行ってきた食品用器具・容器包装に使用される合成樹脂の安全性評価法の評価ガイドラインの提案に関する研究の紹介に関連して、国際動向の紹介や毒性学的懸念の閾値 (TTC) 概念の適用性、摂取量評価における接触係数の導入について概説を行った。

6. レギュラトリーサイエンス関連国際会議報告

(有機化学部)

- 日米欧3極の医薬品規制当局及び製薬団体関係者の品質担当者約25名

ICH準備会合Q11(原薬の開発と製造に関するガイドライン)

セントルイス, 2009年10月25日～10月29日

日米EU医薬品規制調和国際会議(ICH) の品質ガイドラインQ11「原薬の開発と製造」の作成のための議論を行った。本ガイドラインは化学薬品および生物薬品の品質をライフサイクルを通して保証することを目的としている。今回は、「出発物質」「開発とバリデーションの内容」等に関してほぼ合意に達した。

(毒性部)

- 平林容子

日米EU医薬品規制調和国際会議(運営委員会/専門家会議)

セントルイス(米国), 2009年10月26日～29日

当該会議のうち、バイオ医薬品に関する部会にMHLWのトピックリーダーとして出席し、既存ガイドラインの明確化を目的として追補作成を予定していた5課題全ての予定稿の作成を終了した。本補追版は、当該専門家会議メンバー内の合意のもと、内外のコメント収集を行うために公表される(step 2到達)。

- 菅野 純

OECD-EDTA Workshop on OECD Countries Activities Regarding Testing, Assessment and Management of Endocrine Disrupters (OECD参加国による内分泌かく乱化学物質に関する試験と評価法開発に関するワークショップ)

デンマーク環境防護庁・コペンハーゲン・デンマーク
2009年9月22-24日

各国の内分泌かく乱化学物質問題に関する活動状況、テストガイドラインや他のツール/データ情報が内分泌かく乱化学物質の同定・評価・管理に関する政策決定にどのように反映されているかを分析することを目的として、内分泌かく乱化学物質の試験法に関するOECD参加国間の適用及びテストガイドライン化について検討した。

(薬理部)

- 小島 肇, 大野泰雄

OECD LLNA専門家会議

ベセズダ, 平成21年10月

OECDでテストガイドラインの改訂が予定されている No.429 Local Lymph Node Assay (LLNA) について、その詳細な内容を各国の専門家と議論した。

(総合評価研究室)

○ 広瀬明彦

29th SIDS Initial Assessment Meeting (SIAM29) of the OECD HPV Chemicals Program (第29回OECD高生産量物質初期評価会議)

ハーグ(オランダ), 10月20日-22日

OECD加盟国内の高生産量化学物質について、順次それらの初期評価を行っている第29回目の会議(AISM29)において、11化学物質と4つのカテゴリー物質群について初期評価プロファイルが最終化された。このうち、2物質は我が国の担当物質であり、総合評価研究室ではこれらの初期評価文章の健康影響部分を作成し提出している。

○ 小野 敦

The expert consultation on scientific and regulatory evaluation of organic chemistry mechanism-based structural alerts for the identification of DNA binding chemicals and the 2nd meeting of OECD QSAR Application Toolbox Management Group. (DNA結合性化合物のメカニズムベース構造アラートについての専門家会議および第2回OECD QSARアプリケーションツールボックスマネジメントグループ会合)

パリ(フランス), 2009年10月20日~22日

OECD QSARアプリケーションツールボックスの開発状況や今後の開発計画や化学物質安全性評価における利用法について議論した。また、DNA結合性化合物のメカニズムベース構造アラートの専門家レビュー会合において新規アラートの化合物の安全性を評価するツールとしての有用性について議論を行った。